

十人十色の、ミライを咲かせる

2025 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

2025 英語-①

- ・全体的に易くなった。とりわけ文法問題の難易度が下がった。
- ・英作文の問題は難しかった。
- ・長文の長さは変わらずだが、選択肢の取捨はしやすくなった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	リスニングについては、おおむね昨年と同様の難易度だった。聞こえた単語や疑問文の形式に引きずられすぎると間違えるように作られたひっかけ的な問題が目立つ。	会話や文章の文脈をきちんと理解しながら聞き取る必要がある。読み上げのスピードもゆっくりではないので、日頃から意識的に訓練をしよう。
問2 適語補充	(ア) developedなど、難しめの単語が出題されるのは例年通りだが、今年は誤答選択肢がわかりやすく、難易度は下がった。	(ウ) ではbe proud ofが出題されるなど、イディオムも狙われる。教科書のイディオムは定期テスト対策の中で確実に押さえていこう。
問3 適語選択	(ア) はtake part inというイディオムの知識とともに、分詞を使った後置修飾の使い方が問われ、例年通り難しかった。一方で、その他の問題は単語の知識さえあれば比較的答えやすく、全体的には易くなった。(エ) はexcitingという基本的な単語が正答だったが、感情形容詞のing形とed形の違いなど、細かな知識がないと間違いかねない問題もあった。	今年は比較的易くなったものの、傾向として、易化した次の年の入試は難しくなりがちなので、文法・語法の知識をコツコツ押さえていくことは引き続き重要。
問4 語順整序	例年通り複数の文法要素が混じった難しい問題ではあったが、昨年の(ウ)、(エ)のような極端な難問はなく、全体的には易化した。	易くなったとはいえ、間接疑問や接触節、名詞節の扱いなど、節の構造のなかに他の文法要素を入れ込んだ問題なのは例年通り。今後もこの傾向は続くと思われるので、中2後半～中3までの複雑な文法をきちんと理解しておこう。

2025 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	今年は間接疑問文を書かせる問題で、またworksを使うよう指示されていたとは言え、how it worksという語の並びをすぐに思い出すのは難しく、例年に比べて難易度は高かったと言える。	間接疑問文は一昨年も出題されたが、そのときよりもやや難しい問題だった。会話の流れをしっかりと掴み、どのような意味の英文を組み立てなければならぬかを考える必要があった。余力があれば、神奈川県の入試だけでなく、他県入試の英作文問題にもトライしてみよう。
大問6-8 長文	<p>【問6】 身近な人に相談することの重要性をテーマにしたスピーチ英文。(ア)は昨年同様、本文中のグラフと文脈を参照して空所に入る選択肢を選ぶ問題であり、しばらくこの形式での出題が続く可能性がある。文の長さは例年並みだが、今年ではテーマの分かりやすさに加え、選択肢の絞り込みやすさもあり、易くなった。</p> <p>【問7】 短文と資料を組み合わせた選択式問題。(ア)、(イ)ともに、先に問いと資料を見て必要な要素を把握して短文を読む、というようなテクニックを使うよりは、素直に頭から英文と資料を読んでいく方が答えやすい素直な問題だった。割合等の面的な計算も不要であり、例年に比べ易しかった。</p> <p>【問8】 国産米の生産と消費についての対話文。昨年4人だった会話の参加者は3人になり、その分選択肢も比較的素直なものが多かった。一方で、(ウ)では英語では比較的珍しいいわゆる「言い過ぎ選択肢」(全て/必ず～であるというような選択肢)が紛れており、選択肢を雑に読むと間違えかねなかった。</p>	<p>問題としては昨年に比べて簡単になったと言えるが、文章量の多さは相変わらずで(テスト全体では1,800語以上)、速読の重要性は変わらない。</p> <p>スラッシュリーディングといった読みのテクニックを身に付けるとともに、多読を重ねて英文を読み慣れることがこれからも大切だ。</p> <p>また、入試直前期には、入試形式の問題や過去問を解くことを通じて、自分なりの時間配分を戦略的に考えておくのが大切だろう。</p>

2025 数学-①

- ・問題数や出題形式に大きな変化はなかった。昨年度から問6の問題数が2問に減ったが、今年も同様であった。
- ・過去の傾向に沿った出題が多く、過去問や入試形式の問題に多く触れてきた生徒にとっては、手を付けやすい問題が目立つ。
- ・例年難易度が高い問題となっている関数や図形の問題も、典型的な解法を当てはめれば解ける問題であった。一方で、中には神奈川入試では珍しい図形の出題があり、難しい問題も見受けられた。解ける問題を確実に解く力が今回も試された。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	<p>(ア)～(オ)の5問の計算問題で、問題数は変わらず。</p> <p>神奈川入試では典型となっている有理化が必要なルートの計算と式の展開の出題はなく、通分が必要な多項式の加減と乗法公式を使うルートの計算の出題となった。</p> <p>これらの出題された計算パターンは2年前の2023年の傾向に戻った。</p>	<p>今年度も計算問題に少し変更があったが、過去に出題されてきた計算パターンからの出題となっている。</p> <p>早く正確に計算ができるようなトレーニングが必要。</p>
問2 小問集合	<p>(ア)～(カ)の6問で出題数は変わらず。</p> <p>(ア)では昨年は連立方程式が出題されたが、今年には因数分解が出題された。割合に関する方程式、ルートの大小問題など各単元の典型パターンが多く出題され、(カ)では久しぶりの回転体の体積を求める問題が出題された。</p> <p>問題としてはよくあるものだが、神奈川県入試の典型パターンのみ練習してきた生徒にとっては、戸惑いがあったかもしれない。</p>	<p>2次方程式、関数の変域や変化の割合など出題される問題は過去に出題されてきた形式のものがほとんど。</p> <p>その他の問題も典型パターンが多く、過去問にある形式を確実に解けるよう訓練する。過去問の形式に慣れたら、全国入試でよく出題される基礎的な小問にも触れておくと安心。</p>

2025 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 証明と資料の 活用など</p>	<p>(ア)～(エ)の4問構成。</p> <p>(ア)では例年通りの円と相似の証明問題。証明の穴埋めは分かりやすい出題であったが、図形内の三角形の面積を求めるものは難易度が高かった。</p> <p>(イ)は箱ひげ図の問題。対話文と箱ひげ図を読み取りながら、3人の順位を考えるというもの。対話文にある条件が複雑で、答えを1つに絞るのはハードルが高かった。</p> <p>(ウ)では図形の面積を求める2次方程式の式を選ぶ問題。過去には1次方程式や連立方程式での出題もあったが、その時と同様、教科書にある典型パターンを複雑化したものであった。</p> <p>(エ)では図形の問題。例年、問2や問3で出題される図形問題は難易度が高いものであるが、今年は図形の合同に気づけばすんなりと答えが出るものであった。</p>	<p>証明の過程を穴埋めする問題は、前後の記述を丁寧に読んでいけば正解を導きやすい。</p> <p>過去に出題されてきた多くは円周角の定理を使うものであったので、過去問と同じ形式のものから練習していこう。</p> <p>資料の活用は、多くの情報を処理する必要があり、選択肢を確認するのも時間がかかる。入試レベルの問題で多く練習しておくとうい。</p> <p>その他は、図形、方程式、関数など幅広く出題されてきている。まずは過去に出題されてきた傾向を押さえることを優先しよう。</p>

2025 数学-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	<p>解法の手順も過去に出題されてきたものと変更はない。</p> <p>2点の座標を求める際に、線分の関係式を使うという点も例年と変わらず。(ウ)は三角形の面積比を求める問題。中点の座標や直線の式を丁寧に求めたのち、$\triangle COG$をy軸で区切り面積を求めるという、基本的な解法で解き進めることが必要であった。多くの計算が必要であったが、y軸に平行な線分の長さの比が面積比になると気付けると、答えを導きやすかった。</p>	<p>座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。</p> <p>比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。</p>
問5 確率	<p>例年通りさいころ2個のパターン。</p> <p>ルールは複雑ではなかったが、重さの計算に惑わされずにしっかり個数に注目できたかがポイント。丁寧な作業が必要であった。</p>	<p>単純にパターンを数えるだけでなく、出題の条件を満たすにはどうなれば良いかを考える必要がある。</p> <p>過去には答えを導くために図形的な性質を使ったり、計算処理をしたりする問題も出題もされている。時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくといい。</p>
問6 空間図形	<p>昨年から(ア)と(イ)の2問のみの出題となったが、今年も同様であった。</p> <p>(ア)は表面積を求める問題。例年通り、三平方の定理を1度だけ使い計算を進めれば解けるものであった。二等辺三角形の高さを求める必要があったが、教科書レベルの基礎的な考え方であった。(イ)は昨年と比べると難易度が下がった印象。体積から逆算をして高さを求め、線分の比を使い長さを求める問題であった。図形問題で使う典型的な解き方を使えば解けるものであった。</p>	<p>図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。三平方の定理や相似は必ず使うので、まずは平面図形での解法から固めていくといい。</p> <p>面積や体積の公式は確実に。</p>

2025 国語-①

- ・問1にいくつか難しい問題はあったが、その他の大問については文章の読みやすさ、選択肢の絞りやすさの両面において易化した。
- ・昨年大きな変化のあった問5は今年も同じ形式で出題された。しばらくこの形式が続くと思われる。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	例年同様の問題形式で、漢字の読みと書き、短歌・俳句の読解問題。読みで出題された「語る」は難しかったが、その他は比較的簡単だった。俳句の読解は「天心の月」という馴染みのない言葉の入った難解なもので、例年になく難しい問題だったと思われる。	学校で学習する漢字を確実に覚えておくことに加えて、例年出題される難しい語句にもある程度備えておくことが、問1を得点源にする上で鍵となる。日常の中で出会う読み方や意味のわからない語は簡単に調べることを習慣化しておきたい。
問2 物語文	出典は、水墨画教室を受け持つことになった水墨画家と子どもたちの交流をテーマにした砥上裕将「一線の湖」。現代を舞台にしており、簡潔な表現とセリフを主体に構成された読みやすい作品だった。各設問の形式は例年同様。昨年と同様、消去法を厳密に使うまでもなく選択肢を絞れる問題が多く、作品の読やすさも相まってかなり易しかった。	今年は現代劇からの出題となったが、神奈川県の小説の問題では、歴史上の過去を描いた作品が多く出題される。まずは読みやすい作品を通じて読書に馴染むことが大切だが、様々なジャンルの作品に意識的に触れられるのが理想だ。
問3 論説文	出典はSNSにおける「自己デザイン」について論じた岩内章太郎「〈私〉を取り戻す哲学」で、昨年の「ファッションの哲学」とやや似たテーマとなった。抽象的なテーマを扱った文章ではあるが、豊富な具体例が挙げられており、必ずしも難解とは言えない。設問も、選択肢自体がわかりにくかった(キ)を除けば解きやすいもので、全体的には易化したと言える。	長い選択肢は、文節ごとに区切って本文と照らし合わせる消去法を使って考えることで、絞り込むことができる。過去問や模試で練習して身につけておきたいテクニックだ。また、近年出題される文法や熟語の問題も、決して難しいものではない。学校の国文法が苦手でも、文自体の意味をよく考えれば解けるので、練習を重ねよう。

2025 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 古文	<p>『太平記』の青砥左衛門の逸話を語った箇所からの出題。</p> <p>同じ人物についての2つの逸話が紹介されており、前半でその人物像を掴めれば、後半についても理解がしやすかったと思われる。</p> <p>昨年かなり不親切であった傍注も今年はきちんとついており、かなり易しくなったと思われる。</p>	<p>2年連続で中世の所領争いをめぐる文章が出題されたが、中世の武士や貴族にとって、所領がどういうものだったのかをなんとなくでも知っておけば、理解のしやすさは増す。どういう時代に書かれたものなのかを理解しておくことが、古文を読解するうえでの補助線になることは多い。歴史漫画等、読みやすいものでいいので、近代以前の日本についてのなんとなくのイメージを持つておくのは、社会の勉強にもなるのでおすすめだ。</p>
問5 資料の読み取り	<p>昨年同様、共通のテーマに関する2つの説明的文章と、それらを整理した資料との組み合わせという形式での出題。</p> <p>(イ)は2つの文章のそれぞれからポイントになる箇所を書き抜いてまとめる問題だが、単純に書き抜くだけでは答えられず、ある程度自分でまとめ直す必要があった。</p> <p>とはいえ難易度は決して高くなく、昨年同様、易しいものだったと言える。</p>	<p>(イ)対策としては、とくにマークシート化以前の過去問の問5をやってみるのがよい。</p> <p>そのころに比べると今はかなり易しくなっているので、それが解けるようになれば自信を持って本番に臨めるはずだ。</p>

2025 社会-①

- ・全体的に易化。資料を素直に読めば答えられる問題が多く、細かな計算や複雑な思考を必要とする問題はなかった。
- ・一方で、世界地理の大問で時差計算の問題が難化したり、歴史の問題で同年中に起こった出来事の並べ替えが出題されたりと新傾向の問題や、難しかった昨年からの傾向の継続も見られた。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>ヨーロッパと西アフリカ、中央～北アメリカを示したメルカトル図を用いた出題。全体的に、偏西風と季節風、赤道の位置、モノカルチャー経済といった基本的な用語をきちんと理解できていればそこまで難しい問題ではなかった。</p> <p>一方で、時差問題は複雑化し、日本の標準時子午線とロンドンを通る本初子午線を押さえたうえで、時差の基本的な考え方が理解できている必要があったが、地図に経線が15° ずつ引かれているため、それを使えば細かな計算は不要だった。</p> <p>全体的には昨年並みの難易度と言える。</p>	<p>本初子午線、赤道、日付変更線、日本の標準時子午線(明石市)の経度といった基本的な情報、また時差の考え方は絶対に覚えておく必要がある。</p> <p>各地域の基本情報も、白地図を用いて整理しておこう。</p> <p>ほとんどの問題にはそれに対応できる。</p>
問2 日本地理	<p>仙台市についての資料と東日本大震災における津波の浸水区域を示した地形図を使った問題。</p> <p>(ウ)など、受験生にとって初見の資料を用いた問題も出題されたが、素直に資料を読めば答えられる問題で、難易度は高くなかった。</p> <p>NPOとNGOの違いを理解できているかを問う(オ)は分野横断的な問題だった。全体としては昨年並の難易度。</p>	<p>まず、日本の各地の雨温図を中心にした気候の特徴は必ず覚えておくこと。</p> <p>世界地理同様、各地の特色については白地図を使って整理しておこう。</p> <p>初見の資料を用いた問題も昨年から継続して出ているので、問題演習を通じてそうした形式に慣れておくことも重要。</p>

2025 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 近代以前の歴史</p>	<p>古代から近世にかけての日本と中国の関わりという観点からのテーマ史的な大問。全体的に誤答選択肢がわかりやすく選択肢の絞り込みが容易で、難しかった昨年に比べるとかなり易しかった。</p> <p>一方で、(オ)は多くの受験生にとって初見であろう「唐蘭館絵巻」を絡めた設問で、昨年からの傾向が続いていることもうかがわせる。</p>	<p>初見の資料を使った問題でも、問われていること自体は基本の知識の定着や、基本的な資料読解のスキルであることがほとんど。</p> <p>まずはそうした重要ポイントを確実に覚えたいうえで問題演習を通じて経験値を積んでいこう。</p>
<p>問4 近代以降の歴史</p>	<p>近現代の日本における歌や音楽の歴史についての調べ学習という切り口からの出題。</p> <p>切り口はユニークだが、問われていることは基本的な知識であり、近代以前の歴史と同様、昨年からは大幅に易化した。</p> <p>出来事を起きた順に並べる(エ)は、東京大空襲とソ連の対日参戦という、いずれも1945年に起こった出来事の前後関係を問うており、年表の細かな把握を求める一昨年以来の傾向が続いていると言えるが、戦争終盤の出来事をストーリーとして把握できていればそこまで難しいものではなかった。</p>	<p>年表をただの情報として暗記するだけでなく、そこに至る経緯や出来事同士の因果関係など、一連のストーリーとして把握できているかが問われるようになっている。</p> <p>そのことを意識して日々の学習に取り組もう。</p>

2025 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民 経済	新貨幣の発行をきっかけとした貨幣についての調べ学習という切り口の問題。こちらも、知識の表層的な暗記では対処できなかった昨年に比べるとより基本的な内容となっており、易化したと言える。(オ)は、キャッシュレス決済に関する年代別のアンケートという初見資料をもとにした問題だったが、資料の数値を素直に読めば選択肢を絞り込むのは容易で、易しい問題だった。	入試では傾向として、平均点の調整のため、簡単な問題が出た次の年は難しくなることが多い。為替や税制、日銀の役割のような出題されやすいテーマについては、暗記で終わらず、仕組みを理解することが大切である。
問6 公民 政治	主要国首脳会議についての調べ学習というテーマでの出題。参加国の人口とODA実績に関する資料を用いた(ア)では、一人当たりのODA実績を考える必要があったが、大まかな割合を求めればよく、細かな計算は必要なかった。「EU加盟国のODA実績の合計」を考える選択肢では、イギリスのブレグジットを考慮に入れなければならず、最近起きた出来事についてもきちんと理解をしている必要があった。その他の設問は比較的易しく、こちらについても昨年から易化した。	歴史分野で単なる暗記以上のストーリーとしての理解が求められるように、公民分野についても、社会の仕組みや原則を軸にした有機的な理解が求められることがある。経済の基本的な仕組みや、民主主義の目的といった原則から、それぞれの制度の意味を考えていくことが理解につながる。
問7 分野横断型	西アジアについてのレポートを軸にした、分野横断型の大問。(ア)～(ウ)までは基本的な内容で、得点しやすい問題だった。(エ)は西アジアにおける難民の発生国とその人数、西アジアにおける主な紛争や戦争、日本が受け入れている難民数とその出身国の推移、日本の平和協力についての説明文という大量の資料をさばく必要があったが、設問の難易度自体は易しく、落ち着いて資料をきちんと読めば計算や複雑な思考をせずとも答えられるレベルだった。全体として、十分に時間をかけることができれば得点源になる大問だったと言える。	知識の定着は大前提だが、社会についても、実は入試形式の演習は重要だ。とくに資料を使った問題では、初見のものも大量に出題される。本番でそうした設問を見て慌てないように、受験勉強の終盤では社会についても演習を行っておこう。それが、自分に合った時間配分を見つけることにもつながる。

2025 理科-①

- ・例年通り、問1～問8の出題で物理、化学、生物、地学の順番での出題となった。
- ・昨年から、完答である問題がなくなったが、今年も同様。また、各問の問題数に少し変化があった。
- ・日常生活に関わる化学の問題や、原理原則を問う問題があったのは、これまでの出題傾向と同様であった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	(ア)では凸レンズを題材にした問題であったが、一般的な凸レンズ以外のレンズでの光の道筋を答えるものであった。光がどの方向に屈折するかという基本的な考え方お当てはめれば答えが導けたが、見慣れない問題であった。(イ)では抵抗の値を求める問題。公式に当てはめるだけで解ける。(ウ)は静電気の問題で、シンプルな条件で解きやすいものであった。	各問題では基本的な知識事項で解くものがある。
問2 化学小問	(ア)では液体に浮かべた個体が浮き沈みの結果から、密度や体積などを比べる問題。密度の根本的な理解が必要であった。(イ)では塩化銅水溶液の電離の様子をモデル図にした基本的な問題であった。(ウ)では中和によるイオンの数の変化をグラフ化した問題。反応の中でどのような変化が起きているかを考える必要があった。	まずはその基礎知識をしっかりと定着させること。
問3 生物小問	(ア)は顕微鏡の問題。基本的な内容であった。(イ)では生物を分類するのに必要な条件を考える問題。このような分類の問題は過去にも出題されてきており、条件に当てはまる生物を順に確認する作業を行う必要があった。(ウ)では赤血球のはたらきに関する問題。	今回の「密度」の問題や、「霧のでき方」の問題などのように、原理原則を理解しているかを問う問題は出題されることが多い。
問4 地学小問	(ア)では霧を作る実験の問題。露点と水蒸気量の関係をしっかりと理解している必要があった。(イ)は惑星の説明文で正しい組み合わせを選ぶ問題。全ての選択肢の正誤判断するのは難しかったかもしれない。(ウ)は太陽が昇らない極夜という現象が起こる位置を考える問題。提示された図のみで考えるのではなく、「1年の間」で考えるという設定に引っかかってしまった生徒もいるのではないかと。	単なる丸暗記ではなく、根本的な理解をしていくことが大切。

2025 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 物理大問	<p>小球の運動を調べる問題。問題は典型的なものだが、記録テープではなく移動距離を表にまとめている問題となった。(ア)は小球にはたらく力の問題で、(イ)は平均の速さを求める問題。どちらも入試ではよく問われる典型問題。(ウ)は表から等速直線運動の始まりを予想する問題、(エ)では斜面を急にしたときの結果を考える問題であり、判断に迷った生徒もいたかもしれない。(オ)では速さの変化から適切な斜面の形を選ぶ問題。実験結果を分析し、読み取る力が必要であった。</p>	<p>各大問では、見たことないような実験をテーマにした問題が出ることもある。それでも過去の入試問題や全国入試で使う考え方で解くものが多い。</p> <p>まずは、各単元で典型的な実験問題を解き、問題を解く上で必要な考え方を身につけよう。</p> <p>日常生活で活用されている現象をもとにした問題にも触れておくと良い。また、大問の中には基本知識で解ける問題が含まれている。</p> <p>実験や観察の問題が苦手な場合でも、しっかり問題文を読み解ける問題を確実に答えることが大切。</p>
問6 化学大問	<p>入浴剤を題材に、炭酸水素ナトリウムとクエン酸の反応についての問題。解くための観点は一般的な質量計算の問題と大きく変わらないが、グラフや表をどのように使うかの判断力が試された。(ア)と(イ)は気体の性質や反応に関する基本知識の問題。まずここで正解しておきたいところ。(ウ)、(エ)の問題では、与えられたグラフや表から質量を求める必要があり、難易度が一気に上がった。(ウ)では座標の点だけで示されているグラフを実線で結んで解く必要があった。(エ)ではグラフから質量比を求め、もう1つのグラフにその比を当てはめる必要があり、昨年の神奈川県入試の傾向と似ていた。</p>	
問7 生物大問	<p>土の中の微生物のはたらきを調べる実験に関する問題。ヨウ素液とベネジクト液を用いたもので、実験の設定は典型的であった。反応の強さを記録した実験結果はあまり見ないものであったが、そこまで複雑なものではなかった。(ア)では実験の注意点の問題。紛らわしい選択肢はなく、実験の意図を読み取れば答えは出しやすい。(イ)は神奈川県入試らしく、対話文形式の出題。実験結果を考察する問題であった。(ウ)は追加の実験の結果を予想するもので、実験の内容を把握できていれば答えを導くことができた。(エ)は分解者を選ぶ問題。「ミミズ」の扱いに迷うかもしれないが、選択肢から消去法で選ぶことができたはず。</p>	
問8 地学大問	<p>地震に関する問題。(ア)ではプレートの様子を選ぶ問題。基本知識で正解が出る。(イ)は地震計の問題。こちらは2018年入試で出題された問題とほとんど同じ内容であった。(ウ)は初期微動の揺れ方から、震央の場所を推測する問題。初期微動継続時間に関する知識があれば、推測はしやすかった。(エ)はグラフからP波とS波の速さを求め、問題文の情報から波の到着する時間を求める問題。与えられた情報を整理し、何を求めるかを明確にして計算する必要があった。このような計算は入試問題の中では出題されることが多いので、入試レベルの問題でトレーニングしてきた生徒にとっては、手を付けやすい問題であったろう。</p>	